

つくばときの記憶

地図と写真でたどる学園都市の今むかし

昭和30年(1955年)
栄村、九重村、栗原村
が合併し桜村となる

昭和62年(1987年)
谷田部町、豊里町、
大穂町、
桜村が合併しづくば市誕生

学園都市の原風景
(1946年撮影)

筑波大上空から学園中心部
(2010年撮影)

2013.
10.1~12.1
(火) (日)

<開館時間・休館日>

開館時間 9:30 ~ 16:30

開催期間中の休館日 毎週月曜日 ※10/12・13臨時休館
(ただし月曜日が祝日のときは翌火曜日)

お問い合わせ：電話 029-864-1872

<http://www.gsi.go.jp>

入場無料

<会場> 地図と測量の科学館
(つくば市北郷1番 国土地理院構内)



国土交通省国土地理院

企画展

つくば ときの記憶

地図と写真でたどる学園都市の今むかし

のご案内

地図と測量の科学館では、10月1日（火）から「筑波研究学園都市50周年記念事業」と連携して、企画展「つくば ときの記憶——地図と写真でたどる学園都市の今むかし」を開催します。

昭和30年代、日本は戦後復興をはたし、高度経済成長期に入っていました。とりわけ東京は、経済や行政、教育や文化、情報や技術開発など社会の主要な機能が集中し、急激な人口増加をまねきました。そのため住宅難や水不足、通勤地獄や交通渋滞など、人々の生活や仕事にさまざまな支障をきたしていました。

そこで政府は、過密化解消等を目的に首都機能の一部を集団移転することを決め、昭和38年（1963年）9月10日、筑波山麓に研究学園都市を建設し、国の試験研究機関や大学を移転することを閣議了解しました。今年はそれから50年となります。

昭和48年に筑波大学が開学し、さらに各研究機関等の移転がはじまり、国土地理院も昭和54年に筑波研究学園都市へ移転しました。

その後、常磐道柏IC—谷田部ICの開通（昭和56年）、国際科学技術博覧会（科学万博）の開催（昭和60年）、つくば市の誕生（昭和62年）、つくばエクスプレスの開業（平成17年）などとともに、さまざまな企業や大規模商業店舗等の進出があり、研究学園都市は大きく変貌しました。

企画展では、筑波研究学園都市の歩み等に関する地図・空中写真などの測量成果や建設中の写真など貴重な資料を紹介します。これら資料から郷土の変遷・発展を感じてもらうとともに、企画展をつうじて、みなさんが地図や測量へもっと親しみを深めていただければ幸いです。

おもな展示内容

■学園都市建設前と現在の空中写真（床展示 *約2m×3m 縮尺1/2500）

- 1961年撮影、2009年撮影
- 二時期の写真に対応した地図（おもな変化部を重ねた地図）

■学園都市について

- 学園都市のあゆみ ※閣議了解から現在にいたる学園都市の沿革
- 学園都市のあるところ ※学園都市周辺の大まかな地形や東京等との位置関係
- つくば市ができるまで ※昭和の大合併、つくば市誕生、今にいたる移り変わり

■地図で見る学園都市の移り変わり

- 筑波の原風景（迅速測図原図）※今から約120年前の筑波の姿
- 明治の面影残る学園地域（米軍撮影の戦後の斜め空中写真）
- 昭和35年測量25000分1地形図 ※学園都市の建設がはじまる前の筑波
- 昭和50年、昭和55年調査25000分1土地利用図 ※移転前後の土地利用
- 昭和62年修正25000分1地形図 ※科学万博が終わりつくば市が誕生したころ
- 電子地形図25000 ※最新の地図データで見る現在の学園都市と周辺の様子
- 平成元年修正50000分1地形図修正原図 ※ペン画修正による原図（実物）

■つくばへの道（交通網の移り変わり）

- つくばへの道 ※東京とつくばの間の道路や鉄道、利根川架橋などの移り変わり
- TX沿線の今むかし ※TX全線区間を明治の地図と現在の空中写真で比較

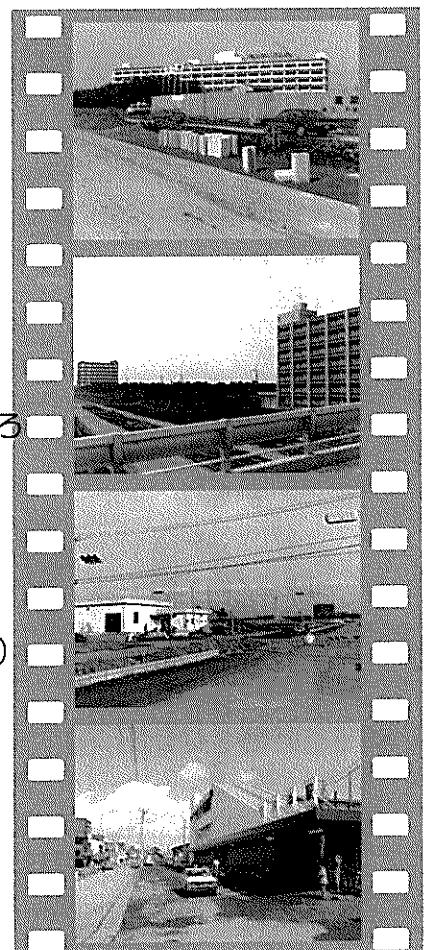
■写真で見る学園都市の建設

（縮尺1/25000）

- 移転前後の学園都市の風景を記録した写真
- 建設中の学園都市と写真に写された地点の現在の風景とを比較
- 1980年代の学園をセスナ機の機上から撮影した風景写真

■国土地理院作成の都市集成図

- 30000分1集成図「研究学園都市つくば」（昭和59年編集）
※筑波で開催された科学万博に合わせて作成した集成図
- 40000分1集成図「つくば」（平成7年印刷）
※コンピュータ処理による地図作成の試験作業として作成された地図
- 17000分1集成図「研究学園都市つくば」（平成20年編集）



〈学園都市建設のころ〉